

新潟教育研究所

令和8年6月1日発行 第59号

公益財団法人新潟教育会
新潟教育研究所

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590-3

新潟教育会館

TEL・FAX 025-222-2971

URL <http://kyouikukai.jp>

E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

「実践知」から 「人間性」の教育を考える

名寄市立大学 保健福祉学部
社会保育学科

教授 森田隆行



昨年、新潟県教員を退職し、北海道の大学に再就職しました。新潟では、中学校5、特別支援学校6、市教育委員会2、大学1の各所で、皆様から支えていただきました。深く感謝申し上げます。

私は現在、「人間性」の教育について関心を持っています。ここで言う「人間性」は、先天的な人格や性格ではなく、粘り強さ、自制心、立ち直る力、共感性、協調性、対話力など社会を生き抜くための総合的な力（非認知能力）を指しています。

「人間性」を、私たちは感覚・経験から理解しています。例えば、採用面接において、新卒者には、実習、ゼミ、ボランティア・地域貢献、部活動、アルバイトなど、他者との対話や協力が必要な活動の経験が問われます。それら場面の数や期間、取組状況などから、面接官は自身の感覚・経験を通し、その人の「人間性」を把握するのです。

さて、私の所属学科では、1泊2日の集中講義やキャンプなどの宿泊活動や、大自然を生かした野外活動がカリキュラムに数多く組み入れられています。負担軽減やリスク管理、数値評価などを重視する昨今の流れに関わらず、これらの活動が存続している理由は、カリキュラムを通した学生の「人間性」の変容が、感覚・経験による確かな手応えとして学内外に共有されている（在学生・卒業生に対する一般的な評価が高い）からです。

この4月に「新入生宿泊オリエンテーション」がありました。これは新2年生が企画運営する1泊2日の活動です。準備を始めた昨年冬、当時1

年だった学生が次のように語りました。「私は入学時の不安が宿泊で吹き飛びました。あの時、同級生や先輩とたくさん話せたから、楽しく充実した今の大学生活があります。今度は私たちが新入生のために頑張ります」。他の学生らも思いは同じで、そこに私は「熱（ねつ）」を感じました。その後、学生は何度も集まり準備を重ね、当日の見事な運営につなぎ、新入生から好評を得ていました。

この過程に触れ、私も「なるほど4年間でのこうした経験の蓄積が、学生の『人間性』を高めるのか」と実感しました。また、私自身の感覚・経験、すなわち「実践知」と照合し、「人間性」の教育には、①心理的安全性のある集団、②ホンモノの活動、③高いモチベーション、④対話と協力、肯定的相互評価、⑤繰り返しと積み重ねの5つが重要だと思いました。

「人間性」は、学習指導要領の核心を担う概念ですので、最近は様々な説明資料や図を目にします。資料や図を自分なりの言葉で解釈し、「形式知」で「人間性」を理解しようとする努力は大切です。しかし実践者なら、「実践知」から「人間性」の教育について考えることがより重要と思います。実践者だけが、「この子たちのあんな姿を、こんな方法で」と具体的にイメージできるからです。そのイメージを実践化し、子どもの反応を得て、省察・改善する過程は楽しいことでしょう。楽しそうに毎日教壇に立つ教師は、子どもの「人間性」の向上にもきっと良い影響を及ぼすはずで

第1期入選論文執筆者の皆様から、その後の取組状況を報告いただきました。

ライティングにおけるアウトプットを広げ・深める、ブレインストーミングの効果

～ マッピングとコミュニケーションストラテジーの活用を通して～

新潟大学附属長岡中学校 教諭 大矢 寿 和

1 研究がめざしたこと

本研究は、ライティングにおける生徒のアウトプットの「広がり」と「深まり」を実現することを目的とした。全国学力・学習状況調査では中学生の英語による記述内容の具体性不足が課題とされていることを踏まえ、マッピングとコミュニケーションストラテジー（以下CS）を活用したブレインストーミングを授業に位置付けた。具体的には、「書く前に広げ、話して深め、書いて再構築する」という技能統合型の学習過程を設定し、思考を可視化しながら他者とのやり取りを通して内容を発展させ、具体的に構造的な文章を書く力の育成を目指した。

2 成果

抽出生徒Aは、やり取りの中でCSの使用回数が4回から7回に増加し、質問や具体例、感情表現を用いて会話を広げる姿が見られた。学級全体でも流暢さ4点または5点（5点が最高点）の割合が約4割から6割以上へと上昇した。ライティ

ングでは、短文の列挙だったものが、理由や具体例、感情を含む構造的な文章へと変化し、やり取りで得た視点を生かす様子が確認された。

3 課題

マッピングの質やCSの活用には個人差があり、形式的な使用にとどまる生徒もいた。また、内容は充実した一方で、文法的正確さや接続表現の不足などの課題も残った。全ての生徒が思考を十分に深められるよう、支援の工夫が必要である。

4 今後の研究の方向性

思考の広がりや深まりを促すため、単元末にマッピングで考えを可視化し、CSを用いたやり取りの後に内容を追記させ、思考の変化を振り返る活動を行った。さらに生成AIを活用し、生徒の英文やアイデアに理由や具体例を問い返すことで思考を広げる支援も試み始めた。今後は、生徒同士やAIとの対話を意図的に位置付け、ポートフォリオを活用して思考と表現の成長を振り返る学習へ発展させたい。

文学教材における個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る単元構想

～ 追究内容の選択と共有方法の改善を通して～

新潟市立新通小学校 教諭 伊藤 陽子

1 研究がめざしたこと

文学教材において「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図り、児童が意欲をもって読みを深める授業の在り方を明らかにすることをめざした。教科書教材内で追究内容や学び方を児童が選択できる場を位置付け、学習過程と児童の変容を検証した。

2 成果

選択・決定を取り入れた学習形態により、発言が少なかった児童を含め発話や交流が増え、意欲が高まった。また、学び方を選びながら叙述に着目し、他者と関わり考えを更新する姿が確認できた。さらに、個での追究を基盤に協働が深まり、協働で得た視点が個の読みを押し広げる学びの往還が示唆された。

3 課題

「読む力」や「個別最適な学び」「協働的な学び」の捉えをより明確に示すこと、意欲と学力形成との関係を多面的に検証することが課題として残された。

4 研究を生かしたさらなる研究・発展的・発展的方向性等

前年度は、追究内容や方法を児童が選択できる学習構想を示した。今年度は教師の関与を問い直し、手がかりを先に示すのではなく、児童の発話に表れた視点や気づきを位置付け、共有しながら学習を進めた。どの場面で支え、どの場面で委ねるのかという関与の在り方を整理し、今後の実践に生かしていきたい。

教育スペシャリスト育成事業は、取組実践を単年度で終わらせることなく、より質の高い内容に高めていくことを大切にしています。ここでは、第1期入選者の皆様から、その後の取組の様子をご報告いただきました。

第1期入選論文は、新潟教育会のホームページで公開しています。



第1期入選論文掲載ページ

自己調整学習を目指した児童と教師でデザインする体育授業

～ 児童と教師が共同的にループリックを作成する跳び箱運動の実践を通して～

1 研究がめざしたこと

体育科におけるウェルビーイングを実現するために、児童の困り感に寄り添い、児童によるループリックの共同作成と実践、改善のサイクルを組み、誰一人取り残さない体育授業になることを目指した。

2 成果

個々の課題別にループリックを作成したことで個別最適な学びと自己調整学習の実現に繋がった。

3 課題

「児童一人一人に適したループリック」の精度向上と幅広い学び方の推奨

4 研究を生かしたさらなる研究

(R7 第5学年 体育科)

跳び箱運動 台上前転・伸膝台上前転)

児童一人一人に適したループリックにするため

長岡市立下川西小学校 教諭 笹川 歩 希

に、技を達成するための最低限のポイントは示し、試技を続ける過程の中で、自分が必要だと感じた項目を追加できるように工夫した。

また、単元始めに幅広く学ぶことのよさを児童たちに伝え、技の達成に向けて試行錯誤する姿はどんな姿も認めた。具体的には、動画撮影やスロー再生機能の活用、師範動画の視聴、マットや着手位置を示すテープなどの場の工夫ができるようにした用具の設置などを課題解決のための手立てとした。

結果、児童が必要感を感じてループリックを改善したり、例示した学び方の中で好きなタイミングで好きな学び方を進める姿が見られたことが成果となった。

思考力を育む数学的コミュニケーションを目指す算数授業の在り方

～ 最適解を作り出す活動とアイデアの価値を判断する活動を通して～

1 研究がめざしたこと

本研究では、複数の解法が成立する活用場面において、自分たちで「最適解を作り出す活動」と、グループごとの「アイデアの価値を判断する活動」を設定することで、対等な関係性のもとに、主体的に思考を深め合うコミュニケーションが生まれると仮説を立て、授業実践に取り組んだ。

2 成果、課題

どれが正しいか分からない課題設定により、子供同士が互いの考えを尊重しながら、対話的に学び合う姿が見られた。発話回数の分析からも、特定の児童に偏らず、グループ内で意見交換が行われていたことが確認され、思考を支える対等な関係性の形成が示唆された。また、他グループの方法と比較する過程で、式の数や見た目の分かりや

長岡市立川崎小学校 教諭 藤井 大 輔

すさ、計算の容易さなど多様な観点から自分たちの方法を再評価する姿が見られ、思考の深化が促された。一方で、分析の客観性には課題が残る。発話数のみで対等性や納得解を評価するのではなく、解法の妥当性や思考の根拠を含めた多面的な分析が今後の課題である。

3 研究を生かしたさらなる研究・発展的方向性等

今後は、全グループの発表に多くの時間を割くのではなく、解き方の要点を示した上で関心の高いグループを選出し、討論的に検討する授業構成を取り入れる。さらに、分かりやすさ・正確さ・計算の容易さ等の評価視点を共有することで、児童が多様な観点から議論し、最適解を探究する学びの充実を図りたい。

新潟教育研究所が今年度実施する 事業の事前案内

1 第3期教育スペシャリスト育成事業

■ 日々の教育実践を共有できる形でしっかり整理し、発信できる力を身につけませんか。

これまで積み重ねてきた教育実践を、実践報告としてまとめ、さらに研究論文として発信するまでの活動を新潟教育会がバックアップします。

- (1) 自身の教育実践を実践報告として整理・記録する力を高める。
- (2) 実践報告を研究論文としてまとめ、自身の力量を高める。

新潟教育会がもっている指導者とのネットワークを最大限に活用し、教育実践家としての力をレベルアップできるよう支援します。

この事業は、実践者が一人で進めるのではなく、指導者と連携して実践の質を高めていく所に事業の特徴があります。研究の構想段階から信頼できる指導者の方と連絡を取りながら進めてください。指導者がなかなか見つけられない方は、応募前でも新潟教育会へご相談ください。

第3期教育スペシャリスト育成事業の募集開始は令和8年8月からです。募集締切は、令和8年12月。選考の結果、選ばれた方から正式に実践を始めていただくのは令和9年4月から令和10年3月まで。一年間の実践結果を令和10年10月までにまとめて提出いただきます。提出された実践報告は選考委員会が審査し、優秀な実践報告執筆者には研究活動費を贈呈します。また、入選者からは、審査員からの指導を生かし実践の質を高める取組をしていただきます。ぜひ、ご応募ください。

2 教師力アップ講座「教壇デビュー前夜まで」

～教師になりたいあなたへ。仲間とのトークと先輩からのエール～

■ 教師として明日から教壇に立とうとしている人たちの不安や悩みを解消することを目的とした講座です。

1. 講座開催日時 令和9年2月13日(土) 会場は新潟教育会館

2. 講座内容(予定)

- 現役教員をコーディネーターとしたグループ演習を行います。
 - ・赴任の前日まで何をどのように準備しておけばいいのか。
 - ・赴任してから最初の3日間、一週間でやっておきたいことはどんなことか。
 - ・初めて子どもたちの前に立ったときから、どのように学習指導を行っていけばよいか。
- 学級経営や生徒指導、学習指導など、現役教員の経験に基づく講話を計画します。

■ お問い合わせ：新潟教育会 教育研究所

電話：025-222-2971

メール：kenkyujo@kyouikukai.jp



教育研究所HP